

< 川崎市立井田病院からのお知らせ >



第43号 井田山

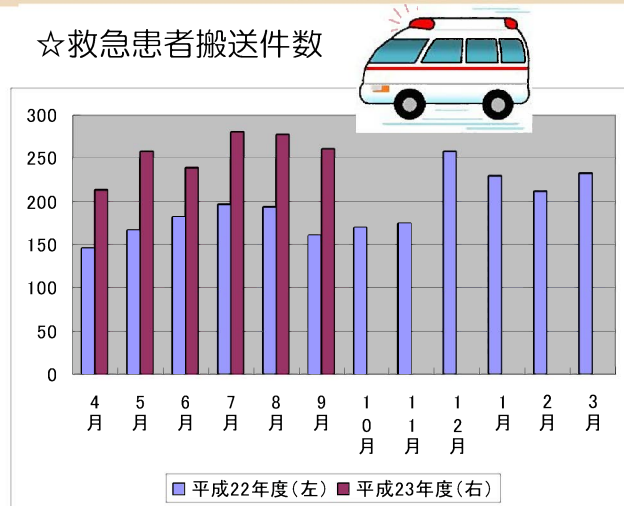


基本理念 「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

《救急医療の取り組みについて》

地域の救急医療のニーズに応えるため、当院は昨年12月より救急告示をいたしました。平日日中は、内科医師が交代で救急番を担当し、川崎市立川崎病院ERの応援をまじえ救急体制を強化し、また準夜勤居残り番と夜間休日の当直医3～4名が救急の窓口となっております。救急に関連する科の連絡を密にし、外科・整形外科は救急のオンコールをたて、循環器科は従来通り、平日日中は急性冠症候群の患者に対し、緊急心臓カテーテル検査・治療を実施し心不全・不整脈に罹患する救急患者には迅速に治療を開始し、また本年4月より脳神経外科に小野塚部長が赴任し脳血管障害の患者にもより迅速に対応できる体制が整えられました。以上の取り組みにより本年度は救急車の受入れ台数の大幅な増加が見込まれております。新病院開院を目前にし、井田病院は地域医療に少しでも貢献できるよう救急医療のより一層の充実を図る所存です。

☆救急患者搬送件数



(救急科部長 好本 達司)

《地域がん診療連携拠点病院としての活動報告について》

川崎市立井田病院は平成18年に地域がん診療連携拠点病院としての認定を受け、川崎南部医療圏のがん診療の拠点として活動してきました。がんに対し手術、放射線治療、化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療と緩和ケアを提供し、我が国に多い肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん（これらを五大がんといいます）をはじめ前立腺がんや子宮がんなどについては各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療を行っています。

また今後はがん診療に関する病診連携をさらに推進するべく、がん患者さんに連携手帳をお渡しして、その手帳に書かれてある情報を井田病院と診療所とが共有してがん患者さんの診療をともに行っていくと考えています。

その他、地域がん診療連携拠点病院として、キャンサーボード、がんに関する市民公開講座、地域の医療機関との症例検討会やがん診療に関する研修会の開催など様々な活動を行っており、これらの活動を通じてがん患者さんの状態に応じた適切ながん治療が提供できるよう努力しています。

(副院長 橋本 光正)

婦人科の最新治療

《低侵襲、内視鏡手術》

内視鏡手術は患者さんに対する負担の少ない低侵襲手術として、外科をはじめ各科で数多く行われるようになってきました。産婦人科領域でも近年手術法が進歩し、良性の婦人科疾患のみならず子宮がんの手術まで用いられるようになってきており、急速に普及してきています。

産婦人科で行われている内視鏡手術は腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術、卵管鏡下手術等があります。井田病院では腹腔鏡下手術を行っています。

腹腔鏡手術とはお腹に数か所小さな穴をあけ、腹腔内に炭酸ガスを満たし、穴から腹腔鏡というカメラ入れ、モニターに映し出された画面を観察しながら、専用の手術器具を用いて遠隔操作で行う手術方法です。通常は全身麻酔で行います。

その特徴としては、①開腹手術に比べて傷跡が小さい。②術後の痛みが軽い。③入院期間が短く、社会復帰が早い。④術後の癒着が少ない。といった利点があります。しかし、二次元のモニターを見ながら、遠隔操作による手術となりますので高度な技術を要することもあり、①術中開腹手術への移行が必要になることがある。②手術時間が長くなることがある。③腹腔鏡特有の合併症（皮下気腫、器械挿入時の臓器損傷など）が生じることがある。④お腹の癒着がひどい時に周囲組織（尿管や腸管など）の損傷の可能性がある。といったことがデメリットとしてあげられます。

当院婦人科では腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、治療を行っています。今年から常勤医が2名となり、手術件数も増加してきております。適応疾患は、良性卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮筋腫、不妊症検査などになります。ただし、これらの症例すべてが腹腔鏡手術の適応になるわけではありません。子宮筋腫であればその位置や大きさや個数、癒着の有無によって、卵巣腫瘍であれば大きさや形状、悪性腫瘍の可能性の有無によって、また患者さまの状態によってははじめから開腹手術を選択することもあります。

このように内視鏡手術は患者様にはメリットも多く、その恩恵を多くの患者様に受けていただきたいと考えています。また、具体的な治療法に関しては個々の症例で検討させていただいています。婦人科疾患でお悩みの方はどうぞお気軽にご相談ください。

婦人科部長 中田 さくら



《新任部長の紹介》 内科担当部長 中村 光康（なかむら みつやす）

本年10月より内科担当部長兼消化器内科部長として川崎市立井田病院にまいりました。消化器一般の疾患を扱いますが、特にいままでは大学病院で慢性肝炎、肝癌など肝臓疾患の治療を専門に行っていました。

肝臓病というのは沈黙の臓器と言われ症状がなくても静かに進行していきます。治療薬、治療方針も昔と比べどんどん変わってきております。本邦でウィルス性肝炎が慢性肝炎の7割以上を占める実態がありますが、肝臓専門医の役割は重要です。専門医の下では慢性肝炎の治療に際し公的医療補助も受けられる場合がありますのでお気軽にご相談ください。どうぞよろしく申し上げます。

《認定看護師について》

患者さんが、安心して治療を受けながら療養生活が送れるように支援するためには、看護師として、より高い専門知識と技術が必要になります。そこで、井田病院では、特定分野について、優れた知識と熟練した技術をもつ“認定看護師”の育成に力を入れています。現在、井田病院には、緩和ケア、がん化学療法、がん性疼痛看護、糖尿病看護、感染管理、皮膚排泄ケア、手術看護などの7分野11人の認定看護師が働いています。これからも患者さんが井田病院にきてよかったと思えるように、さらに知識・技術を磨いていきたいと思っています。次号からは、認定分野ごとに紹介していきます。

（看護部教育研修担当）



《冬季に流行する感染症に注意》



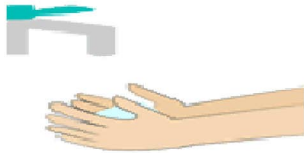
風邪症候群（俗に言う冬風邪やインフルエンザを含めた総称です）

風邪症候群の主な原因菌は、コロナウイルスやライノウイルス、インフルエンザウイルスという種類です。多くは飛沫（咳やくしゃみ）や接触（ウイルスが付いている環境に触れて）する事が原因で、鼻や口から体内に入り感染します。主な症状は鼻水・咳・咽頭痛・発熱・倦怠感・腹痛・下痢など、多種多様です。インフルエンザを除いて多くの風邪症候群の治療は対症療法が基本となります。

処方されたお薬は、自己中断せず最後まで飲み切る事が重要です。

＜日常的な予防法の7つのポイント＞

- ①こまめな手洗いとうがいをしましょう } 効果的な手洗いは20～30秒かけて洗いましょう！
- ②人混みを避けましょう } マスクから鼻を出していると予防効果が下がります。
- ③咳やくしゃみをするときは、マスクやティッシュペーパーなどで口と鼻を覆いましょう
- ④バランスの良い食事をしましょう
- ⑤十分な睡眠をとりましょう
- ⑥部屋の湿度を60%以上に保ちましょう } 濡れたタオルを部屋に干すだけで効果大です！
- ⑦インフルエンザワクチンを接種しましょう } ワクチンを接種し抗体を得るまでに1ヶ月かかります。早めに摂取しましょう。



（感染対策担当）

《院内アンケートから》

（患者様・ご家族からのお礼の言葉）

「きめ細かいケアをしていただき感謝しています。大きな痛みもなく穏やかな毎日を過ごしています」「入院後帰宅できませんでしたが、納得して一生を終えられたと思っています」

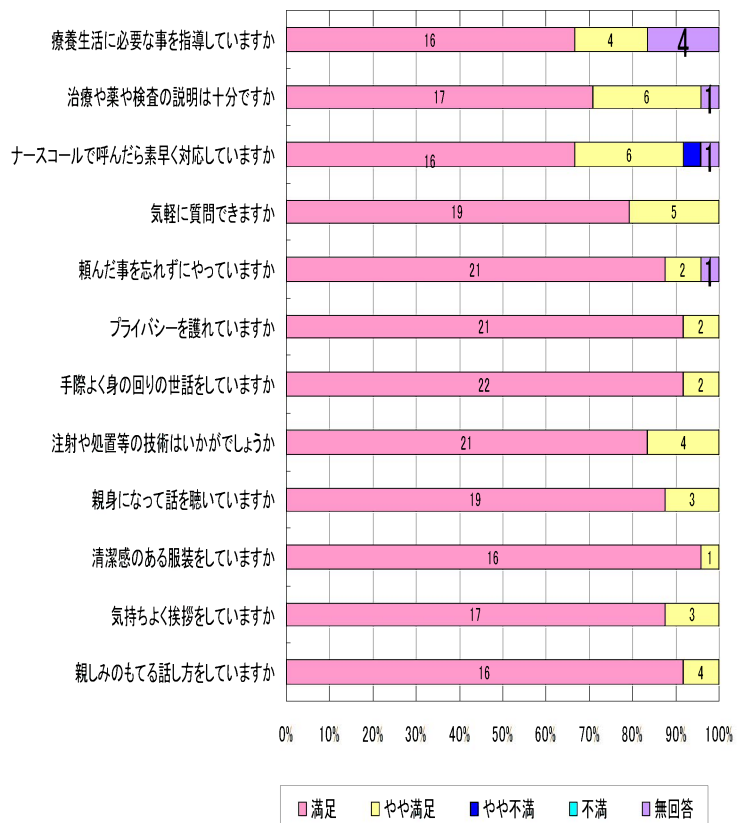
（病院からのコメント）

緩和ケア病棟では入院された全員の方にアンケートを配布し、年2回集計・掲示しています。寄せられたコメントを一部ご紹介させていただきましたが、感謝等多くの投書を頂いております。

患者様やご家族の方が、日常生活に近い状態で安心して過ごせるよう、希望を聞いたりし、ふれあいを大切にしながらチーム医療に取り組んでいます。このような温かいお言葉にスタッフ一同支えられ次のケアへの糧とし、さらに満足していただけるケアを提供できるよう日々努力しています。

（緩和ケア病棟スタッフ一同）

緩和ケア病棟患者・家族満足度調査結果 (1月～6月)



クリスマスコンサートの集い



日時 平成23年12月2日(金) 16時00分から17時00分
場所 3号棟1階玄関ホール
演奏 ピアニスト 西原のぞみさん

(問合せ先 市民交流委員会)

院内ボランティア募集

当院では、病院ボランティアを募集しています。ボランティア活動に特別な資格などは必要ありません。活動内容や回数、無理のない範囲で、ボランティアに参加いただける方、興味をお持ちいただいた方は、お気軽にお問い合わせください。

(問合せ先 市民交流委員会)

地域の医療機関のみなさまへ(症例検討会のお知らせ)

演題 1『子宮がんについて』 講師：中田婦人科部長
2『持続する耳鳴り、充血！実は脳神経疾患だった』 講師：小野塚脳神経外科部長
3『2型糖尿病の新しい治療について』 講師：半田総合医療部長
日時 平成23年12月8日(木) 午後7時から午後8時半頃まで
場所 井田病院旧厚生棟会議室
対象 地域医師会、薬剤師会等

(問合せ先 事務局庶務課)

《臨床研修の指定病院について》

○卒後臨床研修評価機構(JCEP)の受審 ～基幹型研修病院の意義～

平成16年の臨床研修制度発足以来、当院は研修医教育を行ってきました。自治体病院として、地域医療を支える医師の育成を大切に、現在は基幹型研修病院として認定されていますが、研修内容の現状について、11月25日にJCEPに訪問評価して戴くことになりました。この過程を経てより良い教育に繋がりたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。

受審に向けて、当院の「研修病院の理念」の要約を記しますと、高齢化する川崎市南部医療圏で、井田病院では市民のどなたも安心して暮らせるように、救急医療を含めたプライマリ・ケアを習得し、患者様とともに寄り添うことができる豊かな人格を涵養しながら、全人的な医療を身につけます。地域医療では通院困難な方の在宅医療も学べます。更に、地域がん診療連携拠点病院として、終末期の緩和ケア等癌の様々な問題にチーム医療の一員として積極的に取り組みます。(教育指導部長 麻薙 美香)

《節電対応について》

3月11日に発生した東日本大震災により、東日本全域において「電気事業法第27条」による使用最大電力の制限がかかりました。患者様にご不便をおかけしましたが、皆様のご協力により最大使用電力は、7月期12%、8月期6%、電力使用量は、7月期10%、8月期12%とそれぞれ前年度より削減することが出来ました。9月初旬で電力使用制限は解除になりましたが、病院では引き続き節電を行っていききたいと思います。(事務局庶務課)



発行責任者 中川原 勉 編集 川崎市立井田病院 広報委員会
川崎市中原区井田2-27-1 電話 044-766-2188 (代)
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/83byoin/ida/index2.html>

